

## 会 議 録

会議名		第4回かわにし創生総合戦略推進会議	
事務局(担当課)		総合政策部政策創造課	
開催日時		令和元年10月16日(水)	
開催場所		市役所4階 庁議室	
出席者	委員	伊藤 伸 委員、上村 敏之 委員、片山 優子 委員、 浜田 敬子 委員、城南 雅一 委員、福嶋 浩彦 委員、 三坂 友章 委員、山本 利映 委員	
	その他		
	事務局	越田市長、松木総合政策部長、船木総合政策副部長、 的場政策創造課長、野田政策創造課長補佐、 中村、富永、名塩、笏田	
傍聴の可否		可	傍聴者数 5人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1. 開会 2. 議事 3. 閉会	
会議結課		別紙審議経過のとおり	

## 審議経過

発言者	発言内容等
事務局	<p>お時間がまいりましたので、「第4回 かわにし創生総合戦略推進会議」を開会させていただきます。</p> <p>皆様におかれましては、本日はご多忙にもかかわらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の議題は、「市民会議からの提案内容の報告」「総合戦略の骨子について」となっています。本日は市民会議を代表し、発表者の方々にもお越しいただいております。本日も活発なご議論をいただけたらと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、議事録作成のためマイクの音声を録音しております。お手数ですが、ご発言の際は、マイクを手にとって話していただくようお願いいたします。</p> <p>それでは、福嶋会長、議事の進行をよろしくお願いいたします。</p>
福嶋会長	<p>皆さんご苦労さまです。</p> <p>4回目の推進会議ですが、今ありましたように、市民会議の報告を市民の皆さんから直接していただきます。各班の代表者の方に来ていただいています。報告していただく方のご都合もあり、順番が変わっています。まず5班からお願いいたします。10分ぐらいで報告していただいて、こちらから聞きたいことや質問をする時間を取りたいと思います。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
市民	<p>皆さんこんにちは、</p> <p>私は、3歳の双子を育てつつ平日はサラリーウーマンです。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
市民	<p>私は2年半前に川西市に引っ越してきました。私も3歳の双子を育てています。家が自営業なので家の仕事を手伝いつつ子育てをしています。よろしく申し上げます。</p>
市民	<p>5班は「やりがいの持てる地域活動の促進」をテーマに議論してまいりました。地域活動の促進はすべてのテーマに通じる、そのように思いませんか。</p> <p>私達5班は、地域活動によって様々な交流を深めることで、川西市がさらにいいまちになることを願っています。</p> <p>議論の中では2つのグループにわかれ、川西市に足りていないもの、これから力を入れていきたいものなど、4つの提案にまとめましたので説明させてください。</p>
市民	<p>1つめの地域活動ですが、川西市では、自治会加入率が6割を切り、だ</p>

発言者	発言内容等
	<p>んだんと地域での交流や活動の場が衰退しています。それにはまず自治会の必要性や活動内容がみんなに十分に理解されていない状況があるとわかりました。もっと自治会や地域コミュニティの目的や意義を明確にし、皆さんに伝えることで、誰もが参加したくなる環境づくりに努める必要があるということが提案されました。</p> <p>実際に私も川西市に引っ越してきて初めて自治会に加入しました。自治会という言葉が初めて知り、何をしているのかも知りませんでした。子どもがいるので、子どものコミュニティに参加することが多くなり、私にとっては勉強になることや、助かったことがありました。人それぞれですが、活動のメリットがある一方で、活動に入らなくてもいいのではという意見もあります。そういったことを、もっとわかりやすく発信すればいいと思います。例えば、みんなが見てわかるように文章だけで書くのではなく、漫画にすると「自治会ってこういうことをしていて、自分たちの日々の生活にこういう風に役立っているんだ」と興味をもってもらえると思います。</p> <p>1回でも交流に参加しようと思える広報を出してもらい、人が集まって井戸端会議のような交流の場を作ることができれば活発化すると思います。“絶対入る”のではなく、「こういう風にしたい」という人が参加していけばいいのではという想いを皆さんは持っていました。</p>
市民	<p>2つ目の提案をさせていただきます。</p> <p>高齢者の方々が気軽に地域で活動できるような環境をつくることです。高齢者の活動が増えることにより、交流が増え、体力もつき、結果的には介護予防、自力支援につながると考えているからです。</p> <p>6ページの図をご覧ください。具体的には、行政が民間企業と市民の間に立ちニーズに合わせたサービスを中継することにより、民間企業のより需要の高いサービス開発を促し、高齢者の方々の生活をより活発で豊かなものにします。この取組みを行った愛知県豊明市では、介護費用の削減と地域経済の活性化の両方を狙った取り組みとして、全国の自治体の視察件数ランキングで3位になるなど、注目を集めています。川西市でも人口の約30パーセントを占める高齢者の活動を活発にさせる環境作りはとても意味のあることと考えます。</p>
市民	<p>3番目の提案は「災害発生時にお互いを支えあえるような地域交流を行う」です。</p> <p>今まさに台風19号が来て、大変な被害が広がり、テレビを見る度に気持ちが落ち込みます。私たちが住んでいる地域では被害が少なかったため、他人事のように見てしまっています。もし地震や台風がやってきて、生活できなくなった時に「ああすればよかった」と思うのでは本当に困ります。行政がすぐに助けてくれるわけではなく、自分から行動して周りの人とどうすれば助かるかを考えなくてははいけません。日ごろから地域交流をして、周りにどれだけ一人暮らしの方がいるか、どこに連絡をとればいいのかなど、たくさんの情報を仕入れる必要があると思います。</p> <p>例えば、防災訓練もイベントとしてその中に組み込んで炊き出しをした</p>

発言者	発言内容等
市民	<p>り、交流会やお祭りでみんなが知りたいけど知らない情報を地域で集まって情報交換できるような場があればいいなと思います。炊き出しや、住所を連絡するリレーを運動会でやるような活動をとおして、みんなでつながりを生み出せるような防災訓練を実施したほうがいいと思います。</p> <p>また、防災マップを川西市で出していますが、実際に見ると市全体のことが書いてあり、自分の地域の避難所の場所がとても分かりにくいです。そのため、地域で集まり、災害にあつて土砂が危ないときにどこに避難すればいいかというのをみんなで作るのが良いと思います。また、個人情報の抵抗がない方はみんなで作って連絡しあうネットワークを作るなど、本気で考えていくべきだと思います。</p> <p>4つ目の提案は、地域活動や行事の情報を集約し、誰もが手軽に情報を手に入れることができる仕組みをつくることです。</p> <p>川西市では、自治会や多くの地域団体が100以上ありますが、数の多さに驚くとともに、その活動内容の大半を知らないと感じました。</p> <p>10ページの図をご覧ください。私達が重要と考えるのは、地域活動の情報を集約できる仕組みを作ることです。1つの媒体に限定せずにアプリ・ホームページ・イベントカレンダーなど年代に応じた配信や検索を可能にし、必要な人が情報を入手できるようにします。まずは行事などに参加したい人を増やすことで、地域交流も促進すると考えています。</p> <p>特にイベントカレンダーの作成は猪名川町で、既に地域の学生が参加するなど魅力的なものです。また、川西マガジンなどすでにある媒体を利用することも提案したいと思います。</p> <p>以上で、5班の提案の説明を終わります。</p>
福嶋会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは委員の方から質問があればお願いします。</p>
三坂委員	<p>貴重な意見ありがとうございました。</p> <p>私はNPO法人空き家相談センターの代表を務めていました。</p> <p>ひとつの情報提供ですが、川西市さんは単独高齢者が非常に増えていきます。また、今月末に各市の空き家総数の発表がありますが、この近隣においては、川西市は平成25年に8250件に対して、平成30年調査では8,600件…</p>
福嶋会長	<p>情報提供ではなく、市民の方が報告された内容に対する質問を中心をお願いします。</p>
三坂委員	<p>わかりました。空き家が増えているという情報があります。ということは先ほど非常に貴重なご意見いただきましたが、高齢者が空き家を通して地域づくりというのは、逆に、こんなことをしたらどうかという提案をしたら、より良い内容になるのではないかと考えています。例えば着物を買います、靴を買いますといいながら実際には貴重品を持って帰るというような押し買いが非常にふえています。こういったことは、地域の方が連携すれば、被害を防げると思います。</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>提案3の災害発生時ではなく、地域以外での交流をもつことでよりよいまちづくりができるなど、そういった提案も考えていただきたいです。</p> <p>高齢者の地域の活動を具体的なテーマでやったらどうかという提案ですね。もう議論は終わっており、報告をしていただいているので、これから改めてということはないかもしれませんが、ご意見等あればお願いします。</p>
市民	<p>5班の市民会議の中で、実際に豊明市職員の方に具体的な活動内容を教えていただきました。</p> <p>具体的には民間企業と行政が協定を結び、市の職員が高齢者のニーズをリサーチし、それを提携する企業の方々にこういったサービスを生み出して欲しいと伝えます。実際にそのサービスというのは今通っている以外のところの交通の便をよくするだとか、あとは配送などです。カラオケに行く足をつくることで、外に出ていくことができます。体操教室などもあわせてサービスを生み出し、高齢者の方々が外に行きたくなるようなことをやっているそうです。5班の参加者も、それすごくいいことだと賛成していました。</p>
福嶋会長	<p>いろんな具体的な事例や活動を知って議論されたうえで、これをまとめられたということですね。報告書に具体的な事例が出ているわけではありませんが、皆さんいろんなディスカッションされたということですね。</p>
上村委員	<p>ご報告ありがとうございました。</p> <p>私は2回ほどかわにし市民会議を傍聴させていただきました。ずっと1つの班にいたわけではないのですが、こうやって成果物がでてきていることは本当にうれしく思います。</p> <p>5班の話の聞いていると、情報が一つのキーワードかなと思いました。確認ですが、川西市には様々な活動があり、いろんなところに、いいものがあるのにそれがうまく伝わっていないということがポイントだと思いますが、そういった理解でよろしいでしょうか。</p>
市民	<p>そうですね。たくさんの行事や活動があるのに知らなかったということ、この市民会議で実感したというのが皆さんのご意見でした。</p> <p>やはり情報を自分から見に行くのはなかなか難しいです。それを一つにまとめることや、世代によってアプリやホームページ、紙媒体などをニーズに合わせて活用すれば、もっと参加できる人が増えるのではないかと思います。</p>
浜田委員	<p>今の報告では、高齢の方の陳情を聞いて民間企業のサービスをより活用するという提案ですが、実際には働きたいという方はいらっしゃいましたか。例えばこれから人口減少で働き手がなくなる中で、企業も市民活動をすごく熱心にやっておられます。元気であれば働きたいというかたも増えていると思いますが、せつかく行政が仲立ちして民間企業と繋がるとい</p>

発言者	発言内容等
市民	<p>うようなことであれば、例えばNPOなど、企業の中で人が足りないところで仕事をするための仲介をしてほしいなどのニーズはなかったのでしょうか。</p> <p>5班の議論ではそういった話もありましたが、おそらく産業の活性化のテーマで「マッチング」という言葉が出たので、そこで提案があると思います。</p>
城南委員	<p>どうもありがとうございました。能勢電鉄の城南と申します。</p> <p>自治会やコミュニティの参加率が低いということを問題にされており、その理由に活動が理解されていないのではという仮説を立てておられますが、それ以外に自治会の加入率が低い理由は、何か議論の中で出ていたか。</p>
市民	<p>まず、高齢の方は毎回参加するのが難しいと言っていました。体調が悪いと役員会に出るのが厳しく、1回2回の出席ならいいのですが、1年を通じてとなると参加したくないという意見がありました。また、性格もあるかもしれませんが、人との関わりが面倒くさいという意見もありました。</p> <p>それから、自治会はそもそも絶対必要なものではないとおっしゃっている方もいました。そこで、そもそも自治会がなくなったら自分の生活がどのように不便になるかと考えました。ゴミ出しに自治会がきちっとルールを決めてくれていることで綺麗なまちが保てているのに、みんなが勝手に出していると汚いまちになるかもしれません。そういうのをわかりやすくしてくれた方がいいけれども、結局何しているかわからないという人が多いと思います。家族がいる方だと子どもを介して参加することもあるけれども、ひとり暮らしの男性の方とか、仕事でほぼ家にいないという方が多いので、そういう人はあんまり興味を持ってないようでした。</p>
城南委員	<p>ありがとうございました。ということは自治会を再興させるといいますか、地域コミュニティを、再活性させようとする、その辺の配慮をしたものを考えてからでないといけないということですね。</p>
市民	<p>ここは、防災の話にもつながります。私は東日本大震災や阪神大震災を経験しました。3週間くらい今までどおりの生活ができなくなる経験をしました。そういった経験から、交流の中に防災を組み込んでいくと、興味を持ってくれる若い方もいると思います。</p> <p>子育てをしていて、ずっと家にいるため人と交流できないという状況がありました。私は引っ越してきてまだ川西を知らなかったので、自治会に入りいろんなイベントを年配の方やボランティアの方に紹介してもらい。行くようになると視野がとても広くなりました。絶対に自治会がないといけないということではなく、子育て中の人や高齢者の方でも色んな人と話がしたい、三世代で遊びたいって人がいれば盛り上がると思っています。</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>私から一つ疑問です。報告書の2ページで、行政の役割のところ「自治会の役割についてSNS等を活用し説明をわかりやすく伝えます。」と書いてあります。自治会の役割をわかりやすく伝えるのは自治会がやることであり、行政がやることに入っているのは違和感があります。次のページの提案内容の具体的なイメージを見ると、「地域のほうに自治会の役割などをわかりやすく発信する」ということで、役割が地域のほうに移っています。これはどういうことでしょうか。</p>
市民	<p>SNSやホームページ、QRコードなど予算がかかるものは普通の人ではつくれません。私の解釈ですが、SNSでもツイッターやLINEのような友達同士で連絡し合う口コミのようなものは、行政がしないといけないものではありません。おそらく、この地域（カテゴリ）の方の記載は、紙媒体ではなくSNSで『#（ハッシュタグ）』をつけて川西市のことを投稿するとみんな情報共有できるという意味じゃないかと思えます。</p>
福嶋会長	<p>「自治会の役割をわかりやすく伝える」ための手段は様々だと思いますが、自治会の役割をわかりやすく伝えるというのは、まずは自治会の仕事だと思います。</p> <p>2ページにはそれが行政のほうに書いてあって3ページにいくと地域のほうに書いていて。地域にそろえたほうが、いいのかなと思いました。</p> <p>自治会の役割は地域によって違っていいと思います。「私たちは自治会の役割がこうだと思うので、自治会を作って活動する」というのもありますし、「私たちはちょっと違うところに自治会の意味を見出して、こういうことがいいから、私たちは自治会を作る」といった意見など、それぞれでいいと思います。行政が一律に「自治会の役割はこうだから皆さん作りなさい」と言われると、作りたくなくなると思います。</p>
市民	<p>自治会のやっていることが地域によって特色があるのはすごくいいことだと思います。川西市の情報の発信は地域に任せっきりの状態だと思います。私は長らく市民ですが、市内で引っ越して違う自治会の地域に移行すると自治会のことが何もわかりませんでした。市民会議で話が出たのは、転入の手続きをするタイミングは必ず行政が関わるポイントだということです。そこで行政から自治会の必要性や、活動を絶対しないといけないとか、そういうことを伝える場としては考えていません。自治会のやっていることや、区域を伝えるなど、市民が自治会のことを知れる情報を伝えることが必要だという話が市民会議の中で出ました。</p>
福嶋会長	<p>みなさんの考え方をまとめると、地域が自治会の役割を発信し、行政はサポートや支援をするという整理でよいでしょうか。役割をどちらが発信するのかということが、2ページと3ページでは異なる内容が書いてあるので、どちらが本当なのかということがありますが、今のお話を聞くと、本来は地域や自治会が情報を発信し、行政も知らん顔ではなくてサポート</p>

発言者	発言内容等
市民	<p>してほしいということが、皆さん思いということで理解していいですか。</p> <p>はい。</p>
福嶋会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では2班の方、お願いします。</p>
市民	<p>2班では、参加者の皆さんと子育て世帯の現状と問題点とその解決策について、また、学校教育の現状や、学校教育に求めるものは何か、どうあるべきか意見を出し合い、提案書にある1から6の提案にまとめました。</p> <p>1番目の提案は、「産前から産後を通して子育て世帯を地域行政が協力し、支える体制の充実を図る」です。</p> <p>子どもの出産によって夫婦ともに環境が大きく変化し、精神的にも負担がかかってきますが、具体的にどう変化するかを相手に伝えて、夫婦で共有していくことが重要であると考えました。そのために、産前だけではなく、産後も両親学級を設けることや、母子手帳に産後の情報を盛り込むなどの意見がありました。特に母子手帳については親子手帳という名前に変更し、母親だけでなく父親も、より子育てに参加できるような内容にして欲しいという意見が出ました。</p> <p>2番目の提案は、「子育てについての相談や交流が気軽にでき、みんなが笑顔で子育てできる環境をつくる」です。</p> <p>残念なことに、現状は子育てをきっかけにストレスを抱えて社会から孤立を感じるケースが多くあります。実際発表者の西田さんも、川西市の道端で真っ青な顔でベビーカーを押す母親とすれ違って悲しい想いをされたことがあります。慣れない育児に追われる子育て世帯が孤立することのないよう、気軽に交流できる場所をつくっていくことが重要だと考えました。具体的には、親子料理教室、子ども食堂などを開催し、ゆっくりできる場を設けることや、土日も子育て世帯が使えるように公共施設を開放すること、公民館にプレイマットを置いて子連れでも使いやすいように工夫するなどの意見が出ました。</p> <p>ただ、心身ともに疲れていると自発的な行動を起こしにくいという現実があるため、そういうイベントに行く際の申し込みを簡単にすることや、強制参加のイベントを企画したりするなど工夫する必要があるという意見も出ました。</p> <p>3番目の提案は「子育て中の世帯、夫婦ともに情報が伝わる仕組みをつくる」です。</p> <p>市民会議に参加して初めて知った情報が皆さんとても多く、情報を必要とする人たちにタイムリーに伝わっていないということが議論に上がりました。広報誌などの紙媒体だけではなく、スマートフォンのアプリなどを使った情報発信を充実させるべきだと考えます。また、母親だけでなく父親にも情報が届く仕組みをつくる必要があると考えます。</p>



発言者	発言内容等
	<p>具体的には、今ある子育てアプリを改良したり、先輩保護者に対する質問をできるようにしたり、母子手帳をアプリ化して、夫婦で共有するなど考えられます。</p> <p>つづいて4番目の提案は、「子どもたちが生まれ育ったまちに愛着を持って学校教育を行う」です。子どもたち一人ひとりが個性を伸ばし、夢の実現に向けて努力できる環境を整えることが川西市にとって大切であると思います。自身が生まれ育ったまちに思い出と愛着を持ち、子どものころに体験した学びが将来の夢を描くきっかけとなるような、川西市ならではの教育を行う必要があるのではないかと考えました。</p> <p>具体的には、川西市に住む子どもたちに、市の歴史や特色を伝えていくこと、公立で中高一貫校の設立を検討、地域密着型の体験学習を充実させる、フレキシブルに対応できる窓口を設けて子ども1人でも相談できる窓口を設けていくという意見が出ました。</p> <p>話し合っている中で、そもそも特色とは何かというところに行きつきまして、本当に必要なのかどうか。今ある学習指導要領の内容をしっかりと伝えてもらうこれだけでもとても大事なことじゃないのかというような意見も出て、全校で住民にアンケートをとって考えてみるのもいいのではないのかというような意見も出ました。</p> <p>5番目の提案は「学校・家庭・地域が連携協力し、教育を行う風土・態勢を整える」です。共働き世帯の増加や核家族化の進展など、子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。また、教員の負担増加についても大きな社会問題となっています。これらのことから、学校家庭地域が一体となって子どもを育てる体制を行えることで、様々な人との関わり、多種多様な学びに触れることができ、子ども一人ひとりの生きる力を伸ばす教育に繋がるのではないかと考えました。</p> <p>また、三者の活動の場として学校を開放し、地域住民の活動拠点をふやすことで、子どものみならず地域の方たちとの繋がりや活性化にも効果が期待でき、自分らしい生き方、生きがいを見つけるきっかけとしたいと考えました。地域に開かれた学校を構築するということで、地域団体が子どもに対して行うイベントなど学校を自由に使えるようにしていくことで、子どもたちが例えば先生と上手くいかななくても、地域との関わりで学校が好きになってくれるのではないかと意見が出ました。</p> <p>他にも、放課後に勉強会を行うことや、教員の業務負担を減らすシステムを検討し、教員が教育に使える時間を増やすこと、子どもがやりたいことを学べる場所と人のマッチングを行うなどの意見が出ました。</p> <p>6番目の提案は、「すべての子どもが笑って過ごせる学校を目指し、学校と地域が協力して取り組む体制をつくる」です。子どものいじめや不登校には様々な原因があります。すべての子どもが笑って過ごせる学校となるよう、一人ひとりが自分たちのまちの学校と問題を捉え、自分たちでできることを学校と協力して進める必要があると考えました。</p> <p>具体的には、不登校の子どもやいじめ被害者を受け入れるオープンハウ</p>

発言者	発言内容等
	<p>スなどの居場所をもっと増やすことや、各学校のいじめ防止策やいじめが発生したときの対処方針などを積極的に公開していくこと、いじめの再発防止マニュアルを作ることなどが上がりました。</p> <p>そのほかにも、フリースクールが広まるように支援を行い、電話相談だけでなく、メール等でも相談を受け付けることができるようにするなどの意見が出ました。</p> <p>先生と生徒の意思疎通がうまくいかない場合でも取り残される子どもを出さないようにするのが大事だという意見か、市民会議で多く出ていました。いじめが起きたときの対処が大切であり、適切な対処が次のいじめの防止にも繋がるのではないかと考えました。また病気により登校できない、教室に行けない児童や生徒への対応も検討して欲しいという意見がありました。以上で説明を終わります。</p>
市民	<p>参加してきた意見として、私には4歳4か月になる息子がいます。川西に住んで約12年になりますが、市との関わり合いは息子が生まれるまでほとんどありませんでした。出産後、保健センターをはじめ、市内の保育園、幼稚園、公民館などでやっている育児支援事業に、毎日遊びに出かける計画を立てて動いていました。川西市は支援サービスというのが非常に充実していると感じました。</p> <p>ただ一方で、先ほど説明したように、まちで遭遇した女性は大声で泣く赤ちゃんをベビーカーで押して歩いていました。印象として非常に疲れているようでした。心がそこになく、ただただ異様な雰囲気に含まれていました。そこから感じるものは絶望感だったと思います。通り過ぎる女子高生達はその女性を見てゾンビみたいと心無い言葉を口にしていました。しかし、女性にはその言葉すら耳に届いてなくて、何も聞こえず歩いているようでした。同じまちで同じように子育てするその女性を見て、驚きと同時に悲しさでいっぱいになりました。気持ちが共感できるのに、その方に声をかけることもできなかったことをすごく悔やみました。川西で子育てをする親たちが笑顔で子育てできるまちになって欲しいという考えもあり、市民会議に参加してきました。</p> <p>会議の中では高校生から8代のご高齢の方まで、育児や教育について真剣に意見を交わしてきました。この提案書に綴られている2班の6つの提案には、本当に私たちのリアルな想いや気持ちが込められています。正直、実現に向けて難易度が高いのではないかと思われる提案も入っています。でも私たちが考えた、そして思った一つの意見として、この会議の意見として受けとめて、そして皆様と一緒に考えてもらえればうれしく思います。よろしくお願ひします。以上です。</p>
福嶋会長	<p>どうもありがとうございました。それでは皆さんからご質問があればお願ひします。</p>
上村委員	<p>今の話も含め全体的に非常に深刻な話であり、そういう方をちゃんとケアできるような市になっていくというのは大事だと思いました。</p> <p>先ほども話に出ていましたが、5ページ目のその他の意見に『イベント</p>

発言者	発言内容等
市民	<p>を強制参加にする』という点です。おそらく皆さんのいろんな議論があつて書かれたと思いますが、その背景を教えてください。</p> <p>この意見は同じ市民会議の年配のお母さんから発せられた言葉です。初めての育児ですと子どもと自分の事で毎日精いっぱいです。昔と違って実母や姑さんを頼れる環境ではないので身近で頼れるのは旦那さんだと思いますが、いつも育児を助けられるような環境ではないので、女性は本当に毎日の育児に追われて、先ほど話があったように我も忘れてしまうくらい追い込まれてしまう可能性があると思います。それが良くない方向に行けば育児放棄や、虐待ということになると思います。強制的にとという言葉、確かにこれはどうかという考え方もあると思います。その方がなぜ強制的にと言われたかといと、それは強制的にでもその場から自分を救い出して欲しかった、その方のSOSの言葉だと私は思います。誰か他の人や、同じような境遇のママ友が誘ってくれたらその言葉で救われるかもしれません。例えばアプリが鳴って、『川西市でこんなイベントやっていますよ、来ませんか。』に『参加します』と押せば参加できる、それくらいのカジュアルさがあれば、その境遇から自分を連れ出してもらえると本当に心から思ったから、そういった強制的にとという表現が使われたのではないかと思います。以上です。</p>
福嶋会長	<p>そういう思いが伝わるような工夫を、是非していきたいですね。強制的って言ったら父親を強制っていうようなちょっと別の意味で。</p>
浜田委員	<p>非常に共感しました。私も東京で子どもを育てて、育休中すごくしんどかったのが、本当にわかります。</p> <p>お聞きしたいのは、行政のいろんな支援で助けられたとおっしゃっていましたが、支援策は十分あるので参加できさえすればいいのか、手段が足りないということなのか。情報を取りに行ける人にとってはいろんなメニューがあるけれども、生活困難者の方とか、まさに虐待をされる家庭の方にもなかなかアプローチできないので、そのあたりに対する特別の支援が必要だと考えております。もう少し聞いてもいいでしょうか。</p>
市民	<p>情報はあります。育児の情報を何から得たかというのと、やはり広報だと思えます。ただ、市内の子育て支援をやっている男女参画センターや総合センターなど、それぞれが情報発信しているので、それを全部まとめるという作業が必要でした。先ほど申し上げたとおり、川西市内にある育児支援のサービスはすべて受けたいと思い、川西市の担当課に電話して市内全域でやっている育児事業をやっている保育園や幼稚園を教えてくださいと言って、市内の全域の情報を集めました。すべて曜日と時間を書き出して遠かったとしても息子を連れて通いました。家に息子と二人でこもっていたら爆発して良くないと思ったからです。</p> <p>そういう境遇のお母さんに私は本当に子どもと一緒に出かけたいという思いがあります。それはお子さんのためだけではなく、お母さんのためでもあります。そうすることによって、出かけた先で同じように育児を</p>

発言者	発言内容等
浜田委員	<p>頑張っているお母さんに出会える。そしてそれを理解してくれる育児サービススタッフの方に出会える。困ったことがあれば相談できる。就園前のお母さんが家にいずに子ども出かけてほしい。家の中で孤立しないで欲しいという想いがあるからです。情報としては十分ありますが、すべてが開示されているわけではありません。求めるものには与えられる。そこがすごく分かれるのではないかと思います。</p> <p>出かけるかどうか、参加するかどうかは当事者が決めることで、先ほどちょっと強く強制的にといった意見もありましたが、それはお母さんか決心して動くものだと思います。ただ、その情報が広報だけじゃなく、問い合わせをするだけじゃなく、もう少しいろんなところでオープンになっていったらサービスとして利用できるかなと思います。</p> <p>まさに自治会の時に出ましたけど必ず行政を通るじゃないですか。母子手帳発行の時に、自分の住所を言ったら公式Twitterでその地域の情報が全部くるといようなものがあれば全員受けられる、そういうことですよ。</p> <p>どこの自治体もこんな感じでして、補助等は充実しているけれども皆情報を入手するのが難しいということがある。多分うまくやっている所の事例はあると思います。</p> <p>これは感想ですが、もちろん、父親の育児参加が必要だとも言われていますが、逆に言われているのが、家族だけで育児すると長時間労働問題もあり、もっと厳しくなるのではと言われています。私がすごく助かったのはシルバー人材センターのおばあちゃんに助けてもらったので、その地域の人材と一番苦しい社会課題をどうくっつけるかをできればすごくいいのかなと思います。</p>
市民	<p>ファミリーサポートセンターというものがあります。自分自身が体調悪いときに、何とか電話をとってファミリーサポートセンターに電話しようと思ったことがあります。そういうサービスはあるけれども、ニュースで子どもを見てもらった時にうつぶせ寝をできてしまって、突然死されてしまったとかそういうのを聞くと預ける側としては不安になってしまいます。サービスはある。利用すればいい。それだけのことですが、そこに勇気が必要です。そういう不安を解消してくれるツールがあればいいのにと、ずっと思っていました。川西市はちゃんとファミリーサポート通信を出していますが、子育てが終わってから知りました。だからそういうサービスを利用されている人のレポートとか、こんな方がシルバーサポートセンターでお子さんを見てくれるよといった情報がもう少し私が掴んで理解をしていけば、あのときしんどい想いをせずに子どもを預ける勇気とか選択を持てたと思います。</p>
福嶋会長	<p>ファミリーサポートセンターはシルバーに委託しているわけではなくて、会員に提供会員と利用会員があって相互の助け合いで、提供会員の方はそれなりの研修を受けられていると思います。シルバーに委託するといったシステムではおそらくないと思います。</p>

発言者	発言内容等
山本委員	<p>ありがとうございました。私も小5と小2の息子がいて、川西市内で育児しているの、すごく大変さが伝わりました。</p> <p>いま同席されているので言いにくいかもしれませんが、こういった多彩な素晴らしい意見が出てきたときに、市のほうで全部できればいいですが、できるものとできないものがあり、理由があつて今までしていないものもあるかもしれません。こういった議論がされて、これをまとめられたときの市の方々の反応をお聞きしたいのがひとつです。</p> <p>もうひとつは、9ページの行政の役割で、「公立の中高一貫校の設立を検討する」という文言がありますが、中高一貫校があえてここに上がった理由をご存知でしたら教えていただきたいと思います。</p>
市民	<p>市の方も非常に話し合いについて考えてくださったと実感しています。第5回の市民会議の中で、提案書が上がってきました。非常にまとめられてはいましたが、少し伝わりにくいのではないかと意見を言わせていただきました。最終的に手元に届いた提案書を見て、本当に私たちの言いたい言葉で、そしてなおかつ会議にふさわしい言葉・表現があるかと思いますが、誰が見てもすごくわかり易い、率直な文章にまとめていただいて、個人的にはすごく嬉しくて満足しています。</p> <p>公立中高一貫校の設立を検討するというのは私が提案したものですので個人的に申し上げます。教育の話になったときに、いろんな特色を出したらいいのではないかという意見の一つです。最近マスコミでも話題になっている麴町中学校は中高一貫校ではありませんが、非常に革新的な教育がなされています。その影響もあつて、私この言葉を書きました。中高一貫校というか、学習に特化した学校がいいなと思います。私の提案の時は、例えば緑台中学校と緑台高校を中高一貫にして、例えば大学に進学をしたい子がそこで大学をめざすというような提案をしました。</p>
片山委員	<p>川西市で同じく子育てをしております。この川西で私たちが必ず強制的に参加しなければいけないものに健診がありますよね。病院で1か月、4か月、10か月、1歳半、3歳と健診があります。これだけ強制的に定期的に皆が一同に集まれる場というのは貴重ですが、そこで先ほどもあつた交流の場に関する発信が紙1枚で“子育て遊び場はこういうところがあるよ”という情報しかなかったように思います。</p> <p>市の方がやるのは限界があり。実際には助産師会にそれを全部一任しているということかもしれませんが、そこにすごく温度差があると思います。皆さんの話し合いの中で、そういう意見とかなかつたかなと思つて。</p>
市民	<p>お母さん同士では、どこに子ども連れて遊びに行っているのかといった情報は交換されると思います。例えば3か月健診という節目で、保育士さん達とお母さんの間で子供の成長を話し合うという意味でのコミュニケーションは取っていると思います。そこでお母さんの健康面もそこで一緒に節目節目で見ただけでもいいかもしれません。</p> <p>私の経験ですが、わからないことがあつたらなんでも保健センターに電</p>

発言者	発言内容等
市民	<p>話して聞いていました。本当に育児がわからなくて、本も何冊も読みました。電話し過ぎたかのか、保健センターから1度電話をいただいたこともあります。追い詰められているのではないかと心配かけてしまったかなと思いました。ただ、電話をもらえたことは、私は嬉しかったです。自分を心配してくれる誰かがいる、1人じゃなくて保健センターの人も心配してくれていたなって思って嬉しかったです。</p> <p>健診だと個人的には母親同士で交流って感じではなく、本当に事務的にやって終了というイメージでした。この強制参加とするイベントとしては親子でいってもちよっとほっこりして安心して行って良かったみたいな感じで帰れるっていう場をつくってはどうかというような意味合いが強いのではないかと思います。</p>
城南委員	<p>15ページの提案6に個人と地域の項目があります。地域でできることとしては、14ページのほうは、自治会とか老人会が例示されていますが、それ以外に地域としてイメージされる、議論で出てきた仕組みや組織がもしあれば教えてください。</p>
市民	<p>例えば地域でされているダンスのレッスンなど、なんでもいいと思いますが、そういった会が学校で行われることで、子どもたちが先生以外にも地域の人たちと関わって、学校にそういう例えば歌の会だったら歌が好きなのが覗きに行って、そこで居場所を得るといった感じです。</p>
伊藤委員	<p>私は市民会議にずっと参加していましたが、2班は女性の方がとても多かったと思います。提案書に女性の視点で書かれているのはとても重要だと思います。先ほど、一番つらい思いをしている母親、女性側をどう支えていくかという中で、アプリを使うことや、健診だけではなく強制的に参加するという手段の話が出たのだと思います。今回は3年の計画を作るので、少し先のことも考えられるときに、私はできていないから反省と後悔に基づいて話をしていますが、やはり父親、男性側がどれぐらい同じ思いを共有できるかが重要で、提案書にも母子手帳を家族手帳に変えて意識を変えていこうと書かれていると思います。</p> <p>この提案内容だけでは男性が変わっていくのは難しいと思っています。この内容以外に議論として出ていけば教えていただけますでしょうか。</p>
市民	<p>母子手帳には「産後は母親の心が不安定になることがあります」くらいサラっとしか書いていません。そこでどのように不安定になり、どういう助けを求めているか、旦那さんにどういう助けをしてもらったら助かるのかという具体的な内容が盛り込まれていると、出産前は結構時間があるので、もっと夫婦間の産後の意識の差というのを埋められるのではないかなというふうに考えております。</p> <p>それから、子育ての先輩たちへの質問ができるようにするっていうところでもそういった夫婦での参加ができるのではないかと考えています。</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>昨日会ったお母さんは、父親が1ヶ月の育児休暇を取っておしめも沐浴もやってくれるので良かったと言っていました。そのお父さんは市役所の職員で、育休が取りやすかったそうです。残念ながらこの市役所ではありませんが。強制というのはその辺りもあるかなと思います。</p> <p>面白いなと思ったのは、特色が必要かどうかという議論もあったとお聞きしました。特色や個性を作ろう、と言ってやるのではなく、本当にやりたいことや大好きなこと、或いは必要だと思うことをやって、結果として個性や特色が出てくると思います。個性が必要だ、と言うのは、いかにも個性のない社会だからという気がします。</p> <p>その時の議論で特色ってどんなふうに捉えられていたのでしょうか。</p>
市民	<p>例えば、三ツ矢サイダー発祥の地や多田神社のゆかりがあるので、もっとそういったところを取り入れてもいいのではと思います。高校や大学があまりないので、子育て世代が転出していくのではないかということで、もっと特色を出してアピールしていくべきではないかという話でした。</p>
福嶋会長	<p>すでに特色があるが、気づかずにいるということですか。</p>
市民	<p>そのような感じだったと思います。</p>
福嶋会長	<p>時間が押していますが、とてもいい議論になっているので、このまま進めます。</p> <p>では次の1班お願いします。</p>
市民	<p>私は普段は民生委員をやっており、地域の福祉サポートやボランティア活動をしています。それでは、私達1班の発表をさせていただきます。1班では産業の活性化をテーマに話をしました。一市民としては、テーマが広く、大変重いものだと考えています。皆さんの意見を網羅して発表することは難しいため、提案書を見ながら聞いていただきたいと思います。</p> <p>第1の提案は、子育て世代からシニア世代まで、多様な働き方を可能にする環境を整える、です。</p> <p>川西市内には働ける場所が少なく、多くの市民は市外に働きに出ている状況であり、市内で仕事をしたくても、市外にしか求人がない状況です。そのため、新たな勤め先として企業誘致、自宅や市内で自分のスキルを活かしたフリーランスなどの働き方を促進する必要があります。また、川西市はシニア世代が多く、子育て世代の転入が多いという特徴もあります。そこで、シニア世代が子育て世代等のサポートを仕事にできるような仕組みを作りたいと考えました。</p> <p>その実現に向けて個人でできることとしては、テレワークなど自宅周辺で働く方法を検討することや、クラウドファンディング等などを活用して起業すること、ジョブシェア、スキマビジネスを活用するといった意見が出ました。それに対して、地域や行政での後援がやはり必要となりますので、コワーキングスペースの設置場所であったり、起業したい人への経理</p>

発言者	発言内容等
	<p>サポート制度を創設するであつたり、駅前等でフリーランスの仕事のマッチング紹介もあれば良いと思います。シニア世代が子育て世帯を有料でサポートする制度を創設することや、こどもの見守りPTA活動などを有償ボランティア化することも今後考えていけたらと思います。</p> <p>その一つの例として、川西型ジョブマッチング事業について具体的なイメージをあげています。子どもを預かってもらいたい人と、空き時間を活用して仕事をしたい人をつなぐマッチングシステムです。仕事をしていると、子どもを保育所に預けることになります。早朝、或いは帰宅時間が遅い、急なこどもの発熱などいろいろな状況に合わせて、子どもが1人であることが困難な場合があります。あらかじめ登録をしている子育ての先輩である人達に依頼し、一時的な子どもの引き取りをお願いすることによって、これまでの子育て支援や地域のニーズに応えきれなかった部分を補うことができるのではないかと、新たな雇用を生み出すことで、地域経済の活性化や就業率の向上に期待ができるのではないかと考えています。</p> <p>2つ目の提案は、「農業の生産量を維持する」です。川西市民の中でもいちじく・桃・栗・炭などが特産品であるという認識はありますが、実際には食べたこともない人もおり、購買行動に繋がっていません。</p> <p>そのため、企業と協力し、購買欲がでる販売方法やイベントを開催することで、特産品自体の価値や知名度の向上をめざしたいと考えています。これは農業に従事している方の生産意欲を高めていけるように、個人的にはできるだけ協力していきたいと考えています。そのためには、地元の特産品を知り、職種体験や収穫体験、料理教室などに参加することも可能です。特に子どもの給食等で、川西産の食材を提供していただければ、幼いころから川西産になじむということ、とても貴重な体験になることでしょう。生産者側にとっても、そのための工夫が必要であり、川西産ラベルといったブランドイメージを消費者に訴えて行く場所も考えたいものです。</p> <p>今回、川西市の広報を持ってきましたが、『うまし。川西の恵み』というタイトルでもって、本当に今日のテーマにぴったりの内容が写真で掲載されております。どこに手に入るかということも書かれてありますので、またご紹介させていただきます。</p> <p>3つ目の提案は「交通の利便性を生かし活かし集客施設を誘致する」です。川西市は阪神電鉄や能勢電鉄、JRが通っており、新名神高速道路のインターチェンジもあり、伊丹空港も近いが、市内に目的地となるような場所が少ないと思います。交通の利便性を生かし、レジャーなどの目的地となるような場所をつくれば、市内外からの集客による消費や雇用が見込めるのではないかと考えます。この提案に対してはすぐに実行できる内容ではありませんが、将来的に川西の発展に寄与できるものではないかと考えて提案しました。新名神高速道路のインターチェンジ付近が今後開発可能な場所として考え、その場所にハイウェイオアシスを含めた複合レジャー施設の誘致を考えております。</p> <p>その中にはもちろん道の駅に特化したような川西産、特産品の紹介や販</p>



発言者	発言内容等
	<p>売、観光案内として歴史やマップの紹介など、まさに皆が行きたくなるような洒落たレストランの誘致やカフェということも期待されるでしょう。また、今は健康について皆さんとても関心が高いです。特に健康増進のためのスポーツ施設や健康管理施設等の建設も、考えられるなという意見がありました。</p> <p>初めに申しましたコワーキングスペースなどがあれば、情報発信として有効に使えるのではないかとことです。そのような大きな周囲の自然を生かした複合レジャー的な誘致ってというのは、未来の川西を活気づけるものになると思います、提案しています。</p> <p>最後の提案は、「川西市の交流人口と消費額を増加させる」です。具体的な話になりますが、川西市では源氏まつりや一庫マラソンなど市内外の人に参加できるイベントを行っているにもかかわらず、周辺他市に比べて知名度が低く遊びに訪れる人が少ない状況です。そこで、思わず川西に立ち寄りたくなるようなイベントなどを開催して、観光客などの交流人口の増加をめざし、川西市内での消費額の増加を図りたいと思います。市民会議では、実際に市内で買い物する人は少なく、買い物のために、市外に出るといような意見がありました。市内で消費額を増加させるためにも、魅力的な店を発見し、自らが利用することが市内産業の活性化に繋がると考えます。</p> <p>個人で何ができるかという話で、JR川西池田の駅名変更を要望するという意見が出ました。川西に住んでいて、なぜ池田なのかということは問題になっているようです。これはクラウドファンディングなんかで参加すれば可能だということを知っています。駅名変更の希望があるならば、行政にも起案者となっていただきたいなと思っています。</p> <p>次に、川西能勢口、川西池田間の交通量が多い通路がございます。そこでイベントを開催する。或いはキセラ公園で土日にフリーマーケットを常設して、いつ行っても、あそこに行ったら何かあるよっていう工夫もいいかなという意見もありました。</p> <p>源氏まつりや一庫マラソンの際に出店を募集して広く皆さんに進める。特に世代別のニーズに合わせたイベントを行うことによって、市内の商店街も巻き込むような活性化が工夫でできるのではないかと考えます。</p> <p>私の方から以上です。</p>
福嶋会長	はい、ありがとうございます。皆さんからいかがでしょうか。
山本委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>感想としましては、すごくまとまった内容で面白いと感じました。私は市の産業振興課の部会にも出ています。ちょうど昨日開催されて、市内での買い物率が低いということが問題になっていました。その中で、市民の方から出た意見が、市内に魅力的なところがないから、買い物をしてくれと言われても難しいという意見がありました。買い物をするのが先なのか、魅力的な店を作るのが先なのかという議論がありますが、市民ができるだけ積極的に買い物をするというのも、産業ビジョンの中に入れてもいい</p>

発言者	発言内容等
部会員	<p>いのではないかとこのところで話が終わりました。</p> <p>そういった市民会議の中で、市民の皆さんからできるだけ市内で買い物をしようという意見が出ていたのはとてもいいなと思いました。私も市民ですが、市内で買い物しないといけないなと思いました。</p> <p>質問は、3ページの川西型ジョブマッチング事業というところです。4ページの図も拝見しましたが、ファミリーサポート事業に近いのではないかと思います。社協を通じてのところを、サービス提供者と受ける側が直接対価を支払うというところが違うのかなということしかわかりませんでした。ファミサポとの違いや他の地域との関わりなど、既存の事業との違いがもしお話で出ていたら教えてください。</p> <p>私達もファミサポとシルバーさんの内容は存じています。仕組みはとも似ていると思います。アプリを活用することによって、若い世代へ敷居が低いような仕組みにしています。サービスを受けるのは必ずしも子育て世代だけではなく、すべての世代の方でサービスを依頼したい方が対象にするのが良いと思うという意見から、幅広い世代のかた同士がやりとりできる仕組みがあったらいいと思います。</p>
山本委員	<p>右側のコミュニティとか学校地域とのその関わりにつて、図の右側の部分は話がありましたか。</p>
市民	<p>コミュニティのところも働いている世代が多いので、なかなかPTA活動が難しい場合もあります。地域の通学の見守りも、仕事として依頼したり受けたりとかする仕組みとしても、できるのではないかと意見が出てきました。</p>
城南委員	<p>9ページの提案4です。市外の方が川西市に来られてお金を使うケースと、在住されている方が、市の商店を使ってお金を落としてくれるということが二つ書かれています。</p> <p>個人でやることに市内でできるだけ買い物することを挙げられています。しかし例えば、全国の手廻りスーパーでお金を落とすとしても、そのお金は、川西市では落ちなくて、東京へ全部吸い寄せられてしまいます。だから、お金を落とすとしてもそういう大手ではなくて、本当に個人の方がやられていて、材料は地元の材料、生産物を使っているところを選ぶことが必要だと思います。そういう議論は出ましたか。</p>
市民	<p>イズミヤやオアシスなどでやっている地場産業の出店で「この品物は誰々さんのお宅で採れたものですよ」と書いていることがあります。そういう場合は、JAを通して生産者の方に届くのではないかと話が出ました。それ以外の大きな仕組みについてはあまりわかりません。</p>
城南委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>もう1点、川西産ラベルというのは面白いと思いますが、川西産ラベルというブランドが確立していないので、それを貼ることで値打ちが上がる</p>

発言者	発言内容等
市民	<p>わけではありません。それを高めていくのにどうすればよいかという議論はされましたか。</p> <p>より川西市産であることがわかるように、マークを付けられたらいいなと思います。個人的には、きんたくんがマスコットキャラクターなので、それに特化したようなものをこれからつくっていただければと思います。</p>
上村委員	<p>地域循環をどのように高めるかという話ですが、スマホでRESASというホームページがあり、そこでは川西市の中でどれだけ所得が生み出されて、そのうちどれだけ消費が回っているかを見ることができるツールがあります。それを見ると、生み出された所得のうち2013年で63.8%。要は地域の中の支出に回っていると、2010年が67%だったので、実は地域循環が落ちている。やはり市内の中で所得が生み出されたものをちゃんと中で使っていくってということが大切です。消費額を増やしていくという意識を持つのは大事だと思います。</p> <p>質問ですが、提案1の企業誘致は手法としては伝統的、要は古いと思います。この話が出てくる中に例えばいろんな自治体が企業誘致については競争をしていますので、そんなにすぐうまくいくと私は思いません。</p> <p>そういった議論があったのか教えてください。</p>
市民	<p>企業誘致については、将来の川西市にとってはいいことだと皆さん積極的に話をされていました。しかし、場所であるとか或いは猪名川町で企業誘致が始まっているという話を聞くと、途中で話には出てこなくなりました。場所的にも難しいということで、あればいいなということで、特に個人の働き方についてのほうを重点にしていきたいなと思っています。</p>
上村委員	<p>もう一点質問です。フリーランスを増やしていくのは、地域的に大事なことだと思います。特にこれだけ働き方が多様になると、自営業の方を増やしていくことが、その地域循環を高めるにはすごく大事だと思います。そういう意味では一つの手法として、コワーキングスペースがあがっていますが、この辺りにコワーキングスペースは無いんですよね。大阪大学の近くに一つあるようですが。ニーズが無いのでコワーキングスペースがないのか、そもそもコワーキングスペースが無いから、フリーランスが増えていないのか。どっちが卵でどっちが鶏なのかという議論はありましたか。</p>
部会員	<p>市民会議の場でも、フリーランスやコワーキングスペースを利用したことがある人はいました。実際ナビゲーターの方で運営されているかたもいました。やはり採算がとれないと設置が難しいという部分と、あとはそれしかりではなくて、コミュニティを作った上で、そのあとに政策が出てくるという部分があるので、その辺を考えて拠点を作っていくということになり、実は違ってくる話がありました。その辺の内容があって川西には無いのかなってことだと思います。</p>

発言者	発言内容等
伊藤副会長	<p>一つ補足のコメントと質問です。駅名改称の話が出ていましたが、私がコーディネーターをしていた4班では、駅名ではなく市名の改称といった大きい話も出ました。駅名に関しては、仕事で関わったことのある茨城県龍ケ崎市では、駅名が市名ではないため「龍ケ崎市駅」に変えようということになり、2020年から変更されます。その経費が公表されており、総額で3億9,000万円です。名前を変えるだけなら簡単ではないかと思っていましたが、色々なシステム改修が必要になるそうです。ただ、クラウドファンディングは夢のある話だと思いました。</p> <p>もう一つが提案2についてです。農業生産量のところで、イチジクの話がありますが、イチジクは今回の市民会議を実施するにあたり、最初に2,000人に送ったアンケートで川西市を連想するキーワードを書いてもらった中で最も多かったワードです。4班の議論でもわかったのですが、イチジクを生産農家や生産量自体は落ちてきているそうです。そのため、お土産などの加工品も増やすことは難しいという話が出ていましたが、そこをなんとかブランド化し、維持していくことが提案されています。そのような問題意識も共有されている中で、もう少しアイデアがあれば教えてください。</p>
市民	<p>アイデアというほどではありませんが、イチジクに関してはそのものを出荷するということがあります。スイーツやワインに加工したり、或いは天ぷらにしたりするとおいしいという話もあり、様々な使い方ができると思います。ただ皆さんがそれをどれだけ周知しているかということだと思います。なるべく購買意欲につなげられるようなそういう仕組みづくりがあればいいと思います。生産者の高齢化によって生産量は減りつつありますので、それを食いとめるためにみんなで協力できることはないかなという工夫でもって、成り立っているような仕事じゃないかというふうに考えております。</p>
浜田委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>私自身が今やっているメディアは、若い人が多いので働き方の多様性の取材をしています。経産省の産業構造部会のメンバーもやっていて国も副業とかフリーランス化の議論に入っています。フリーランス化は、すごく自由で新しい働き方ですが、問題もたくさんあります。今の社会保障制度ではやはり厳しい働き方で賃金も低く抑えられます。実際に市民の皆さんの中で、その働き方をしたいという方が多かったのでしょうか。一時的なブームだから、こういうのを誘致したほうが良いとかコワーキングスペースを作ったら良いという話になっているのでしょうか。それとも子育て世代が多く、通勤がしんどいからフリーランスにしたら良いのではないかなったのでしょうか。実際どれくらいニーズがあるのでしょうか。さっきおっしゃったように、行政がコワーキングをやって上手くいっているケースはありません。個人の方がやっている大規模なフリーワークみたいなデベロッパーがやるか、どちらかがおおくて、個人がやっているカフェでやるか、空き家をNPOが改修するとか、色々ベンチャーでやっています。お母さん世代がやっているようなところまであります。行政がそこま</p>

発言者	発言内容等
部会員	<p>でお金を出してニーズがないものに税金を投入するというのは難しいかなと思います。その辺で皆さんの働き方のニーズってどこまでのものなのかぜひ知りたいです。</p> <p>ご質問ありがとうございます。</p> <p>コワーキングシステムは、もともとは子育て世帯のお母さんからの話がありました。正社員は難しいが、隙間時間や空いた時間をパートなどで有効活用したいという方は結構市民会議の参加者の方でいらっしゃいました。ナビゲーターの方で、コワーキングスペースの紹介をさせていただいたときには、そういった方からそういう働き方をしてみたいというお声がありました。行政に求めるのはあくまでも説明会や就業の支援の部分というのが非常に多かったと思います。実際、コワーキングスペースの整備をするのは行政に関わらず、先ほど言っていた、企業やNPO法人が考えられると思います。以上です。</p>
三坂委員	<p>2ページ目の4番、「起業したい人向けにサポート制度を創設する」ですが、具体的にサポート制度を創設してもらいたいのかどうかとか、お話しいただきたいと思います。</p>
部会員	<p>支援金というのも一つですし、システムの使い方や企業に対する説明会など補助的な役割が必要ではないかと思います。それから、バックアップを行政がやることにより、安心感が得られるという意見が出ていました。</p> <p>以上です。</p>
福嶋会長	<p>今のお話を聞いていて、そもそも産業の活性化とは何かという捉え方を、もっともっと私達が深める必要があると思います。スタートは、とにかく人がもっと川西市に来て、もっとにぎやかに、もっと消費するということから始まっているように思います。しかし、中身の話をしていると、もう少し質の問題で、地域循環をどう作っていくか、その産業の質をどう変えていくかというところに皆さんも問題意識を持たれていると思います。このペーパーだけ見ると、企業誘致、総合レジャー施設の誘致というようなものと、それからマッチングとか起業だとか内発的に産業をつかっていくっていうものがあります。ペーパーだけ見ると、並列ですが、皆さんの議論をよく聞くと、やはり後者を考えて具体的に言うておられるのではないかと思います。私は企業誘致や総合レジャー施設の誘致は、歴史的なやり方というか、率直に言う時代遅れもいいところだと思います。そこも最初は皆さんすごくいいと思ったけど、実は…という話をされているところが大事ではないかと思います。その辺ちょっと、全体的なご意見がありますか。</p>
市民	<p>何か集客できるような目的地や場所が川西に欲しいという願望から来たものです。そういうものがあると、家族連れの人たちが来るだろうとか、遠くからでもハイウェイを使って来るだろうっていう予想のもとで話し合った内容です。現実的に3年でできる話でもないの、夢といたらおか</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>しいですが、将来楽しい思い出を持ってつなげていけるような部分として残していきたいなということで提案させていただきました。</p> <p>それが本当に夢なのかどうか、もう少しみんなで考えたいなという気がします。どうもありがとうございます。1回ここで休憩を入れさせていただきます。</p> <p>&lt;休憩&gt;</p>
福嶋会長	<p>それでは、再開します。3班の方よろしくお願いします。</p>
市民	<p>3班の説明をさせていただきます。 発表者は女性が多く、男性1人で変なプレッシャーを感じてはいるのですが、よろしくお願いいたします。</p>
市民	<p>もう1人の発表者です。好き放題、言いたい放題に言っていたらいつの間にかここに選出されていて、どうしようかなと思っています。また好き放題言って帰っていくと思いますがよろしくお願いします。</p>
市民	<p>それでは3番の説明をさせていただきたいと思います。 3番は人間の生活の基本となります、衣食住の中の住の部分です。住といいましても住むところ、もしくは先ほど言っていました地域のコミュニティ、それが大きくなっていくと、市や県になっていきます。その中で、3班のテーマといたしましては、川西”市“というところに注目しています。産業都市でもなくて、商用都市でもない。あえて住宅都市、ベッドタウン的な住宅都市としての魅力向上ということについて議論をしていきました。住宅都市といいましても非常に多く問題があります。その中においても、特に空き家対策、防災対策。公共交通、地域交流について議論を進めていっております。</p> <p>最初の提案ですが、基本的にどこかの企業がどこかに書いているような、一般的な理念的なものになってきます。ただ一つポイントとしましては、やっぱり誰もが快適で安全安心に生活できる住環境つくるということでございます。</p> <p>提案内容は安全安心に暮らせる環境は非常に重要で魅力的です。そのためには防犯対策、まちの美化を進めることによって事故の抑止につなげたい。具体的に、何をやっていくかですが、皆様から出たご意見では、個人としては庭をキレイにしたいとか地域としてはクリーンアップをする。美化をすることによって、隅々まで目が行き届いていることになり、防犯対策につなげていこうとしています。ひいてはそれが快適なまちになっていくという提案内容です。その他、防犯カメラの設置や、高齢者の自動車の運転の問題、交通事故対策、その辺りを主に議論していきました。大きく分けると実際には防犯と防災とともに交通対策からというふうなところが、今回の提案で一番の内容でございます。これは基本的な理念になって</p>

発言者	発言内容等
	<p>いるのかなと思っておりまして、そのあとの提案2以降に続いていきます。</p> <p>提案2につきましては、空き家対策ということで、空き家を増やさない取り組みとあわせ、空き家を利活用する仕組みを整備するということを提案させていただきます。提案書に書いているとおり、昨今のいろいろな地域で空き家問題が多く取り上げられていると思います。それは川西市も例外ではないということを知り及んでおります。現在は空き家が他の市町村と比べてそれほど高い比率ではないと聞いてはいます。しかし将来的なものと、潜在的に見えない空き家、把握できていない空き家もあるということです。ここら辺の対策をしていくことが今後も非常に重要になっていくと思われ、議論を進めていってまいりました。具体的などころで、出てきた意見といたしまして、まず空き家というものが皆さんどこにどれだけあるかわかりませんので、それをどういうふうな形で情報公開する、その情報公開した内容を、いろいろ個人情報のお話とあるのは当然ですけれども、一般の民間の事業者さんに公開しながら、利活用できる仕組みを作ることです。空き家は中古の物件です。耐用年数の問題で20年経った家にあと何年住めるのかというのは非常にわかりにくく、多分誰も判断できないと思います。そこをあと何年ぐらいは住めますよと補償するような仕組みをつくることによって、空き家でも新規で買うよりもリーズナブルに購入出来て活用して循環できるような仕組みを作ってはどうかと思います。川西市もリフォームに対して助成制度をやっており、その枠を次年度はもう少し大きくすると言われてはいました。ただ、なかなか皆さんご存知なくて、どうしても不動産というと専門的な知識があるのと、高額な商品になってくるので、なかなか簡単に手が出せずにいます。そういうことに対して、きちんとフォローしてもらえよう体制があればいいと思います。ここで言いますと空き家対策ナビゲーターというのがありますが、そのような方々のご協力のもとで空き家を利活用できないかということです。情報公開することによって、できるだけ空き家を増やさないということを進めていけたらと思われ提案させていただきます。</p> <p>提案3は災害時にお互いが助け合える関係を日常の地域交流を通じて育むということです。提案内容としては、「大規模災害発生時には、行政からの助け（公助）はすぐには期待できないことから、私たち市民が自ら備え（自助）、助け合える関係（共助）を築いておく必要がある。」という部分のお話です。広島からナビゲーターの方をお呼びしてお話をお聞きした際に、その日の市民会議のメンバーの中で、特にこの自助共助の部分でかなり白熱し、特に共助に関してたくさん意見が飛び交いました。</p> <p>自助の部分では参加メンバーの方の中で1人、中学生になられた娘さんが夏休みの自由研究の課題として防災マップを作ったそうです。川西市が発行しているものも見せてもらいましたが、その子は自分の住んでいるところ限定したものを作ったそうです。そういうのっていいよねという話から、なぜ他でやっていないのか、やり方を知らないんじゃないか、それならば教育の場でやるのが良いのではないかということで、カリキュラム</p>

発言者	発言内容等
	<p>に防災教育を入れようということになりました。ナビゲーターは、子どもを絶対に防災の訓練に参加させるということをして絶対条件として、毎年1回訓練をしていると聞きました。その方法をカリキュラムに入れることで、大人もイベントごとに参加できるような、地域ごとにできるようにすればよいという話が出ました。その際に地域交流がどれだけあって自治会は何人が入っているのかという話になりました。入っているけど活動に参加していない、活動に参加していたけどやめました、という人もいました。辞めた理由の中には高齢になったためといったものもありました。ただ、一番の理由は、自治会の動きがわからないからということでした。入っているけど情報がおりにきていないというふうになりましたので、自治会とは何ぞやという話になりました。そしたら、自治会の仕事を経験された方が4～5名おられて、やるが多すぎる。やるが多いと新規で加入される方のハードルが高くなっていくがゆえにやめる方も多くなってきたし入る方も少なくなってきたということでした。そもそも時代に合っていないという話にもなりました。ただ自治会を無くしていいかとなったときに、8割の方がいりませんと答えました。やっぱり何かあったときに頼られるのは行政ではなくって一番身近なところだからです。では自治会を残すためにはどうすればいいかと言ったときに、行政と自治会側が、きちんと仕事の内容、自分たちがやるべき把握すべき内容を精査したほうがいいという話が出ました。ただそれでは地域の温度差があるので、その地域に特化していく部分をちゃんと浮き彫りにするべきだという話が出ました。とりあえず時代に合ったものにもう一度見直そうってことになりました。</p> <p>今度は共助の部分です。情報の発信の仕方について市民が把握していないだけで川西市は広報なりすべてにおいてちゃんとどうすべきか、ということ発表しています。しかし、市民が情報を得られていない状況にあります。情報を得るまでの間の過程が全然見えてないというか、情報発信されていることを市民が把握していないことが問題点の一つで、それも手法が時代に合っていないという話でした。手法は年代別に明確に分かれてきて、大体20～50歳代の方は、インターネット、またはSNSなどで得る情報の方が多いです。その場で簡単に見られる、QRコードをつけるような工夫をするべきじゃないかという提案がありました。60歳以上の方はそういったものを使うことができないので、自治会を活用していかなきゃ駄目だという話が出ました。やはり自治会の役割はなにかというところで話が止まってしまいました。最後の会議のときにも何回か出てきていたので、その辺は市の方だけでなく、市と自治会がしっかりと班長会議の中で見直していく部分ではないかという話がありました。</p> <p>4番目の提案は、身近にある自然を生かすなど工夫を凝らして誰もが楽しく遊べる場所を作ることです。川西市はいろんな魅力があります。源氏発祥の地であるとか、三ツ矢サイダーです。この議論の中では、自然が多いという話があり、自然を生かしてプレイスポットというわけではないですが公園を特色のあるようなものに整備していきましょうという提案でございます。具体的には、地道なところからですが触れ合いベンチ事業を活用しまして、保護者が子どもを見守ることができるようなベンチ</p>



発言者	発言内容等
	<p>の設置っていうのを増やしていきましょう。そうすることによって保護者だけではなくて高齢の方が外に出て行く機会になります。人の目も増えますので、犯罪等の抑止にも繋がってくるのではなかろうかと考えます。ここでも公園の美化っていうのが出てきていますのでクリーンアップ活動。スケートボードなど特定のスポーツができる公園やバーベキューができる公園を整備するという活動があります。各地域に特色を持たせた公園を整備していったらどうでしょうか。</p> <p>提案5は、公共交通機関の利用促進により、都心からほど近く便利なまちの魅力をさらに向上させるということです。他の班の話でもあったように川西には阪急・能勢・JRがあり、更にはNEXCO西日本の新名神高速道路インターチェンジができましたし、阪神高速も通っております。交通の便という意味では非常にいろんな手段があって良いと思います。住民の人は買い物であったり働きに行ったり、学校に行ったりするために公共機関を使っていますが、大和の奥に住んでいる方は、例えば梅田に出るときはバスを利用して能勢電、阪急を利用します。初乗り料金が3回かかるような形になります。市に提示していただいた能勢電単体での距離に対する料金は全国で見ても、ものすごく高いものではありませんでした。ただ、大和の方に住んでいる方だと、三つの交通手段を使う形になりどうしても費用がかさばってしまうそうです。そうすると、家がそれほど高額な値段ではなく、購入できたとしても、実際に生活するときのお金が非常にかかってしまうということ、見直しもあるのではないかとということです。私が聞いてなるほどと思ったのは、セット料金化ですね。バス・能勢電・阪急と一貫した対距離料金ではないですが、セット料金化みたいなことができればいいなと思います。非常にハードルが高いのはもちろんわかっています。交通の便が少し不便なところの発展にも繋がっていくんじゃないのかという議論がありました。それは非常に印象残っているような内容でございます。</p> <p>最後の提案6は、住みやすいまちとしての魅力を積極的に発信するというので、正直結論っていうかあまり最後までまとまった印象が個人的にはありませんでした。提案で書いていますように二次元バーコードを利用するなど、情報を共有する場合の対応手段は、情報によって変えましょうということを書いています。</p> <p>先ほど1から5までの提案で、具体的には2から5までかもしれませんが。それが実現をしていく方向であったとしてもそれはやはり世間に上手く公表しないと、その魅力は通じないと思います。それをどのようにして公表するのかというのが、非常に大きな問題であると思っています。意見の中では今のままではなかなか厳しいものがあります。SNSが流行っていますがどうしても使い方がわからない、苦手な方々もおられます最近では自分が必要な情報しかやっばり習得しにいかないということもあり、知って欲しいニーズと向こうが知りたいニーズっていうのをマッチングさせるというのは、なかなか難しかったりするので、そこら辺をどうしていけばいいのかなっていうところで結論が出ないまま話は終わってしま</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>いました。ただやっぱり問題としては、魅力を積極的に発信する広報的なものが施策として必要だと思い、提案させていただきたいと思います。</p> <p>以上6つの提案が3班の内容でございます。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
上村委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、皆さんからお願いします。</p>
市民	<p>報告ありがとうございました。</p> <p>非常に幅広く盛りだくさんだと感じました、私からの質問は一点です。14ページの公共交通機関に関する意見ですが、14ページでは主体が行政になっているのですが、具体的なイメージをみていると、料金設定の変更とか設備の改良とか、これは交通機関の仕事かなというふうに思います。ただ、よくよく見ると「提案を行う」と書いてあります。提案を行ったら民間の交通機関が動くのでしょうかというところが私の疑問ですがいかがでしょうか。</p>
福嶋会長	<p>提案を行うということで、阪急や能勢電鉄も色々考えていただいているとはもちろん思いますが、やはり市との間で補助や協定的なもので、そちらの事業を市としてバックアップするものがないと、どうしても市民一人ひとりがやると企業に言ったところで物事は進まないのかなと思っております。</p> <p>そういうところをやっぱり行政側としてはですね、推し進めていただけないかなというふうなことで提案をさせていただいております。</p>
市民	<p>他の方がいかがでしょうか。</p> <p>今の話で、公共交通機関の利用者増を実現したい理由というのはどういうことでしょうか。</p>
市民	<p>そこまでの議論はありませんでした。</p> <p>私見では、川西市がどういう方向に向かっていくのかを考えていきますと、今回でいえばベッドタウンとして進めようとなりましたら、どうしても人数が減っていくよりも増やしていく施策を取っていかないといけないと思っております。ただ少子化の問題があつて人口も少なくなつて、コンパクトシティという話もあります。その中でも人口の増加というのが市としての命題になるかと思ひます。では消費者は何を見ているのかという利便性で、魅力にも繋がってくると思ひます。それは生活している中で毎日やっていることに対する利便性というのは非常に大きいかなと思ひます。会社に行くのに通勤時間が1時間ちょっとかかるというのは許容したとしても、お金が1回あたり片道1,000円かかるのと、1時間かかっても500円となると、500円のほうをとると思ひます。それ以外の要因というのはもちろんわかっていますが、一つでも阻害要因を減らすことによって、人口を増やす、もしくは安定化させるということに繋がるのではないかなという考えでございます。</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>住宅都市の利便性を考えたときに、働く場所は市外にあるから、交通の利便性が大事なわけですね。その交通の利便性で、こういうところが問題だということで、提案をされているのだらうと思います。利用者数が増えるというよりも住んでいる人が公共交通機関を必要なときにちゃんと利用できる整備というのが住宅都市という時の視点だと思います。最初の産業の活性化だと、公共交通機関がいかに利益を上げてもらうかってこともあるかもしれません。ここは住宅都市としての住民の視点なので、その利用者増に繋がる提案っていうのは利用者が減っていて、利用者が減ることによって公共交通機関の利便性も落ちている。利便性が落ちているから利用者を維持しないといけないということなのか、それとも公共交通機関が不便だから、みんな自家用車で行って渋滞して困る。だから、公共交通機関の利用者をもっと増やすような誘導が必要だということでしょうか。いくつかの視点があると思うので、そこをお聞きしたいです。</p>
市民	<p>時間がかかるというか、利用者が減っているというのは聞きました。何回も乗り換えがあることによって、お金がかかりすぎるから自家用車で出かけていくことになります。結局のところお金が高いからっていうだけで能勢電鉄の利用者が減っているそうです。そういうことで能勢電鉄を使う人が減ってきたから奥に走っている阪急バスが廃止になっているっていうのもあったんですね。北部は土地の値段が安く住んでいる人が多いため、まず川西能勢口までに出る費用を抑えてしまえば、乗客数が増えるのではないかという話になり、今の話になった気がします。</p>
福嶋会長	<p>ここでのポイントというのは、減ること自体は問題じゃないんですね。減ってみんなが座れるようになったら、もしかしたらハッピーかもしれない。減ること自体の問題じゃなくて、何か住んでいる人にとって問題があって、結果として減っている。料金の初乗り設定を3つ繋げないといけないから高い。或いはそれによって自家用車が増えて渋滞するとかそういった部分を提起していただくと、この項目としては、すごくわかりやすくなるのではないかなと思います。説明の中ではあったのですが、その最終的なところが減るから困るという話ではないですよ。高いから困るとか、利用しづらいから困るとか、道路が渋滞するから困るとか、そういうことを解決していくっていうところが、この住宅都市としてよりよくしていくためのポイントではないかなと思います。</p>
市民	<p>確かに減るから困るという話は出てなかったと思いますね。先ほど私見という話をさせていただいたかと思いますが、そういう意味ではやはり高いから困ります。渋滞の話はあまり出たようには記憶してない。やはり高いというのが一番ネックになっていたかなと記憶しております。</p>
伊藤委員	<p>市民会議では3班に限らず、交通費、特に能勢電が高いという話があったので、推進会議で城南さんに確認させていただき、実際には他社に比べて高くはないということがわかりました。今のことに関連して、実際に住</p>

発言者	発言内容等
	<p>んでいる方の雰囲気はどうだったか教えていただきたいと思います。いわゆる川西モデルと言われるように、開発事業者が山を切り開いて宅地をつくってそこに人が入って行って、そこから通勤のときには、能勢電を使う人もいるし、使わずに阪急バスで川西能勢口に行く人もいるし色々ですが、少なくとも一旦、サラリーマン世代がニュータウンで生活し、それが退職して高齢化になってくると、なかなか今まで歩いていた距離が歩けなくなるという話は確かにあったと思います。住まれている方の実感としては、通勤世代が利用するにあたって高いと感じているのか、高齢者層が、今まで歩いていた距離が歩けなくなってくるために、バスや能勢電を利用することで高いと感じているのか、実感がどちらなのかというのは今の話で繋がると思います。いかがでしょうか。</p>
市民	<p>実感的にはやはり通勤とかだけではなくて、日々の利用の話だったと思います。先ほどセット料金の話もありましたけど、ご高齢の方だとバスで出て能勢電を使って買い物するのがしんどいので、それ以外にもライドシェアを活用できないかという話もありました。今のご回答をさせてもらって日々の生活においても、厳しいということです。</p>
伊藤委員	<p>それも踏まえて現状認識として住みやすいのかどうか。提案6はまさにその住みやすさの魅力を伝えたいということでしょうか、いかがでしょうか。</p>
市民	<p>3班に参加していた方の中では、川西が好きっていう方の割合の方がむしろ9割でした。むしろ戻ってきた方が多かったです。一度外に出たけれども、大阪まで1時間で行くことができる。静かでそんなに地域的にも悪くはない。おうちの値段的にも、そこまで高くない。だから戻ってきたという方が参加人数の中で8割方でした。</p>
伊藤委員	<p>4班でも皆さん住みやすいというところは変わらないので、これだけの人数がそう思っているのであれば川西はきっと住みやすいまちということがある程度共有されていると言えらると思います。そういう意味で、提案6はすごく重要になってくるだろうと感じました。</p>
上村委員	<p>住宅都市としての魅力を向上して一体何がしたいのかというのをお聞きしたいです。例えば人口減少の局面に入っていると思うのですが、その人口の規模を維持したいのか、それとも減っていくことは許容して、その中で魅力を向上していくという話なのか。それかもっと思い切って増やすという話なのか、どういうふうなイメージでしょうか。かわにし創生総合戦略が今後3年間とはいえ、やはりどこにベクトルを合わせて、その戦略を練っていくのかは結構重要なので、そのあたりの共有はありましたか。</p>
市民	<p>議論の中ではそこまで大きな話はされませんでした。ただそこはこれからの行政でどういうふうに進めるっていうところと、我々市民の意見との合わさったものが今後の川西市の方向性に繋がっているのかなっていうふ</p>

発言者	発言内容等
三坂委員	<p>うには今回の会議を通して思っております。</p> <p>ご提案ありがとうございます。2番の提案についてです。市と連携し空き家を流通に乗せる（事業者）ということですが、川西市は平成30年に宅建協会とか空き家相談センターと連携しています。まずこのことを皆さんが知っていたのか、或いは知っているが、うまく進めてないと思われているのか、いずれでしょうか。</p>
部会員	<p>こちらについては部会のほうから提案として盛り込みました。市が宅建協会さんと連携されていることはもちろん知っています。NPOさん、空き家対策ナビゲーターと事業されているということも市の職員にきていただいて説明も受けました。ただ、一職員としての意見ですが、なかなかまだ活用ができてないというのが正直なところです。市はもちろんPRしますが、ともに協力し合ってそれを活用していく、その事業を発展させていくということは欠けていると思ったので、提案させていただきました。</p>
三坂委員	<p>それはナビゲーターのことをおっしゃっているのですか。それとも全般ですか。</p>
部会員	<p>市民会議の中でも、空き家に対する強い危機感を市民の皆さんも持っておられました。</p> <p>今すぐ困っている方も中にはいらっしゃいますが、今困っていないけど将来的に困ることがわかっている、ただ、どこに相談したらいいかわからない。不動産屋に行けばすぐ賃貸に出すとか売買するとかいう話になってしまうから、まずは行政に気軽に相談できるところが欲しいというお話がありました。ナビゲーターさんだけでなく、空き家対策全般について、せつかく制度作っていただいているのにといいところで、私たちの中でも話をしたところです。</p>
福嶋会長	<p>確認ですが、15ページのその他の意見5で『新たな転居先として選ばれていない理由を調査』とあるのですが、新たな転居先として選ばれていないというのは何かデータがあって言われているのでしょうか。</p> <p>推進会議での議論は、子どもができた方の子育てをする場所として結構選ばれているという話をしたのですが。これは何かデータがあるのでしょうか。</p>
部会員	<p>こちらについてはおそらくですが、会議が終わった後に改善提案シートを書いてもらうのですが、その紙の中に書いてあるものをここに付け加えさせていただいているものだと思います。</p> <p>市民会議の中で具体的に何か提示があってそれについて話し合ったとか、そういうことではございません。</p>
福嶋会長	<p>意見を書いた方に聞いてみないとわからないということですね。ありがとうございました。</p>

発言者	発言内容等
市民	<p>それでは4班の発表をお願いします。</p> <p>文化・歴史の活かし方4班の発表をさせていただきます。</p> <p>5回に渡る会議では最初に市の文化財ご担当より指定登録文化財の紹介があり、キーワード集計の結果などの資料をもとに自由に発言し会議は進みました。</p> <p>文化・歴史の活かし方という視点で、私達が発見というよりも『再発見』という形でわかったことは、川西は「清和源氏発祥の地」で「源氏のふるさと」ということです。700年間にわたる武士社会のはじまりがここ「川西」にありました。これを4班では軸として打ち出していくことに決定しました。</p> <p>「源氏が感じられる」まちづくりをするため、私たち市民や地域がさらに行政にコミットして一緒に作り上げていきたいと思えます。</p> <p>提案内容については時間の関係で各2項目ずつピックアップしてお伝えさせていただきます。</p> <p>提案1は、『市民が日常の中で川西の歴史や文化を「知る場」をつくり、かつ楽しく学べる環境をつくる』ということです。</p> <p>まず日常的に川西を知ることが重要だという話になりました。そこで年齢層をどうするかということで、まずは今のこども達が川西の歴史に触れる機会を増やしていけるような協力を行政・地域・個人とでしていけたらという意見がでました。</p> <p>行政の役割の⑩について、ツールとしては住友銀行が発行していた漫画がおもしろかったのも、もし著作権に問題ないようであれば学校の図書館に配布を検討したり、ボランティアガイドと協働で歴史にふれる授業を増やしたりできればと思います。また、古河カルタというのが茨城県にあったそうですが、そこからヒントを得まして、ふるさとかわにしカルタを作成しそれを通じて楽しく学ぶ場を提供することなどです。</p> <p>地域の役割③のようにニュートラルに動ける活動の場として、有志で「まちの宝物サポート隊」を結成し、川西の歴史・文化の魅力を再発見し、行政と協働で地域をまきこみながら、資源の活用法の提案や、案内板などの導線整備や情報発信をしていきたいと思えます。</p> <p>提案2にまいります。こちらは資源の活用、施設の誘致です。</p> <p>個人の①・②で歴史の由来を知ること「源氏発祥の地」であること、また「三ツ矢サイダー発祥」の地であること、そしてこの2つがつながっていたこともわかりました。</p> <p>お手数ですがお手元資料の三ツ矢サイダーの由来をご覧ください。</p> <p>平安時代の中頃に源満仲という武将がお城を築こうと神社に祈りをささげたところ、「矢の落ちた所に作りなさい」とお告げがあり、矢を放つと多田沼の“九頭の龍”に命中したそうです。そこで、満仲はここに城をかまえて、そのときに矢を探しあてた男に、三ツ矢の姓と三本の矢羽の紋を与えました。</p> <p>また、あるとき満仲は鷹狩りに出て、偶然、近くの谷に湧く水で鷹が足</p>

発言者	発言内容等
	<p>の傷をなおして飛び立つのを目の当たりにしました。これが多田村平野の天然鉱泉でした。この平野が三ツ矢という姓の発祥の地で、明治時代にこの故事にならい湧き出していた天然鉱泉を「三ツ矢平野水」と名付けて発売されたのがはじまりとされています。満仲がなぜこの地を選んだのか、三ツ矢サイダーのマークはなぜ三ツ矢になったのか由来を知ることができました。</p> <p>九頭竜が息絶えた場所は「九頭死」という地名に、満仲が矢を問いながら歩いた地は「矢問（やとう）」など伝承にちなんだ地名が多く残ります。モチーフとしては日本最古の家紋といわれる「源氏の笹竜胆」、「矢をいる満仲」、「九頭竜」などが歴史を語るアイコンとなります。</p> <p>このあとの提案については、少しの資金で足元を固めながらできるものから大きく資金作りが必要なものがあります。</p> <p>7ページをご覧ください。行政がやることの1番で、アサヒ飲料とタイアップで初期の「三ツ矢印 平野シャンペンサイダー」の復刻版となる商品開発や、源氏版のラベル作成、市の登録文化財になった三ツ矢記念館の整備をして花を植えることなど自然と歴史をマッチさせる方法などが出ました。新たな事業ということでは「三ツ矢サイダーミュージアム」を建設し施設内でペットボトルまた、リターナブル瓶の充填施設を設けることで、地域の経済循環にもつなげていくことができます。</p> <p>養父市では、廃校を利用した事例があるようです。また、先日6月に行われたG20のサミットでは能勢ジンジャエールが晩さん会などに使用されたようです。</p> <p>提案3は他市連携、企業連携とストーリー作りです。他の市町村や企業との連携を強化することや、市にある資源やイベントをつなぎ合わせてストーリーを作ることで、さらなる付加価値を付ける。市単独ではなく歴史を通じて他の市町村と連携、また企業・大学との連携を強めたいと思います。</p> <p>8ページをご覧ください。清和源氏のつながりがある市町村と連携で、文化庁が認定する「日本遺産」の申請を検討してはいかがでしょうか。日本遺産については、2020年に文化庁が目標とする100か所の認定が想定されるため、申請は来年が実質ラストチャンスです。兵庫県では現在4つの認定がなされています。</p> <p>個人のできることの①では、とにかく足を運んでみるなど、個人が知ろうとすることが無い限り、近隣都市にはなかなかアピールできるものではないという考えがでてくると思います。</p> <p>それを踏まえてですが、川西に興味を持つために、例えば行政の⑦のように、既存新規問わず特産品やお菓子はもっと販売場所を増やすべきではないでしょうか。</p> <p>これはさきほど発表されていたところがあったと思います。そういう場所を設けるべきという意見が4班でも出ました。パッケージはさきほどのモチーフなどを使い歴史を感じることでできるものを使い、駅周辺など手軽に手にできる場所も増やす。なにより市民の目に触れることが大切で、それに伴うプロモーションが必要です。</p>

発言者	発言内容等
	<p>9ページにいきます。行政⑩～⑬源氏まつりです。</p> <p>中部だけが盛り上がっている印象があるという意見があり、市全体の祭りとして盛り上げたいという意見がありました。</p> <p>また源氏まつりに参加を希望する他市からの参加も継続的に受け入れを検討してもよいかもしれません。4回目にコーディネーターとして入ってくださった富山県庁の宮崎さんは懐古行列に、巴午前がいてなぜ相棒の木曾義仲がいないのかとお嘆きでした。</p> <p>10ページです。企業との連携では能勢電鉄とタイアップで歴史文化を巡る環境整備をすることが提案としてあがりました。</p> <p>満仲や息子の頼光にまつわる史跡は多田神社、満願寺をはじめ妙見山)まで点在しています。たとえば源氏ラッピング、三ツ矢サイダーラッピングなどの文化的な駅名を活かしたイベントの実施などの提案がでています。里山ラッピングは個人的にも大好きな電車でした。「自然×歴史」で新しい里山ラッピングの登場など期待をしてお待ちしています。</p> <p>提案4にいきます。ここが結構重要な提案になります。</p> <p>川西をこれまで以上に「歴史・文化のまち」にしていくため、情報の伝え方や表示の仕方などを工夫するということです。</p> <p>恐れ入りますが、お手元に看板に関する資料が配布されていますのでご覧ください。</p> <p>こちらは現状市役所500メートル以内近辺の看板をピックアップして写真を撮ったものです。</p> <p>商業用の看板、公共サインの現状ということで、まず左ですけども駐車場の看板ですが、情報が多過ぎて煩雑になっております。</p> <p>また、色身が黄色で赤文字、逆に赤ベースだと黄文字とすると、注意喚起の看板が埋もれてしまうのが大変気になるところです。真ん中の写真は退色して見えづらい状況になっていまして、横断者に注意が見えづらい状況になっております。また、右手のほうにはスクールゾーンの看板の上に更にあるものがありまして文字が隠れてしまっている状況です。</p> <p>2枚目、施設の案内版の現状です。文化財の案内板も小さいです。これは多太神社ですけども、電信柱の一番下のほうにあるものですが。やはり、歩行者に向けて、誰のためにつけられた看板かちょっとわかりませんが。</p> <p>一つのエピソードですが、多太神社に行ってみたら駐車場がありませんでした。改善例としましては、駐車場がない場合、道が狭い施設については、徒歩で訪れて欲しい旨を表示する。ピクトグラムを使用して、直感的でわかりやすいものにする。バリアフリーも含めてそういうところの改善が必要ではないかなと感じました。</p> <p>3枚目で最後の体系ということで文化財、公共サイン、商業用サインについて体系別のもの。例えばデザインマニュアルがあればいいかなということ。</p> <p>4枚目はすみ分けということで、公共サインの場合、例えばカラーのベースをグレーにして、例えば川西のポイントになるリンドウのカラーを使ってこれは公共サインということがわかるようなものとしてはどうかとい</p>



発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>うことです。</p> <p>5枚目、こちらはぱっと見れば文化財とわかるということで、例えば、北摂のほうの自然に関わる里山博物館の看板が立っているのですが、それを踏襲することでも良いかもしれません。</p> <p>そういうサインも含めまして、いろんな方に見やすいということは非常にいいことです。</p> <p>住民の結束というか、そこが変わったとかそういう情報交換も必要です。住民の結束を持つことが安心できるまちに繋がるという意見はほぼ全員でしておりました。</p> <p>改めてですが地域の2番にあるように、個人としてでも転入者の方がいらっしゃった場合は積極的に声をかけていける地域にしたい。川西市は比較的そういうことができやすい部分はあると思いますので、それをより活性化させていくことが重要ではないかという意見が出ております。</p> <p>提案5は愛着形成とマナーです。</p> <p>市民一人ひとりが川西を自分ごと化することで、自分の住む地域を大切にする文化を形成するということです。</p> <p>地域でできること①のように、まずは地域に楽しみを感じられるように、個人、地域、行政がそれぞれ行動することが大切だと考えます。</p> <p>そのうえで個人が行うことの④にありますように、ゴミ拾いや草刈りなどボランティア活動に参加をすることも重要だと考えています。川西は自治会で日を決めて参加型でやる機会もあります。そこで更に参加しやすい提案ですが、例えば行政が行うことの⑥にありますように、ポイント制度を設ければよいという意見もありました。例えば史跡の清掃や草引きなどに参加するとポイントが付与されて地域のお店で使うことができるなど還元型にする。そうすれば個人としても家の周りの掃除だけではなくて街を大切にするという意識も持ちつつ利益もあるということでコミットしやすいという意見がでました。</p> <p>行政が行うことの③にはメンバーの高校生からの意見で「歩きタバコをやめてほしい」というものがありました。源氏を感じるまちづくりを行ったその先で、市・内外の方が街歩きをする際に、歩きたばこがある街よりも、ない街のほうがよい、ということで条例をつくるのもよいかもしれません。一方で、マナーが守れそうであれば条例化までして、しほりをかけなくてもよいとの意見もありました。</p> <p>最後に提案1の行政が行うことの⑤でありました、「市名の変更」につきましては、歴史を感じる市名に変わること認知され、それが市民の誇りにつながり、そして費用より効果のほうが大きいのであれば検討をしてもよいのではと思います。</p> <p>「源氏を感じられる」まちづくりのためには足元からしっかり準備や整備をすることが必要です。最初に申し上げましたが、私たち市民や地域が今以上に行政にコミットして一緒に作り上げていきたいと思っています。</p> <p>以上で4班の発表をおわります。</p> <p>ありがとうございました。</p>

発言者	発言内容等
上村委員	<p>報告ありがとうございました。</p> <p>私も4班の議論は過去2回お邪魔して。部分的にお話を聞いて、やはり歴史をきっちり知ることが非常に大切だということを感じました。</p> <p>皆さんも再発見という言葉が言われましたけど、そういうことが大切だということを感じてひしひしと感じるような議論だったと思います。</p> <p>驚いたのが、この看板と公共サインの資料が出てきたのは非常に驚きました。しかも非常に具体的な提案がなされている。この公共サインの後ろのほうの資料とかは、とてもスマートな公共施設サインのあり方を提案されているというのはすごいなと思います。公共サインは行政で対応できる世界ですが、ここから質問です。やっぱり商業用の看板はなかなか規制が難しいかなと思います。この近隣の自治体だと芦屋市が屋外広告物条例を作っているのが有名です。とはいえそれで一気にその商業用の看板が改善できているかということ、そうでもないんです。公共サインのほうは、ある程度お金さえあればなんとかなるので、商業用の看板についてどう規制すべきなのかということところです。おそらく民間の企業さんからの反発があると思いますが、そのあたりの議論はありましたか。</p>
市民	<p>看板については詳しく話があったということは正直ございません。ただ、先ほどもお伝えしたとおり、危険だから伝えたいのに注意とかの文字が全く読めない標識ということはやっぱり問題であると思います。そういう点にプラスして、住みやすいまちというとやっぱりバリアフリーやいろんな方が識別しやすいまちづくりが川西の文化として、根付いていくことは非常に良いことだという話になりました。</p> <p>そこから数少ない意見ですが、こういう誰もが識別しやすいまちという面で、この商標の看板に意見が出てきたということです。そこは専門家の方のお力をお借りしてこれから議論していく話なのかなというふうに解釈しております。</p>
福嶋会長	<p>民間の看板も含めて、景観条例等で縛っていくとすると、エリアをある程度絞ってやればできなくはないなと思います。</p>
城南委員	<p>発表ありがとうございました。</p> <p>提案2について、川西にある歴史文化資源として、多田神社から古墳等々まであげておられます。そんな中で優先順位をつけるということで、清和源氏発祥の地というところに優先順位をつけていると思います。もしそうであれば、清和源氏を優先順位の一番にすれば、何から始めていけばいいというような議論はございましたでしょうか。</p>
市民	<p>ありがとうございます。</p> <p>私自身も含め私たちが感じているのは、駅周辺に何も清和源氏を感じるものがないということです。銅像はありますが、清和源氏の源満仲と名前が書いてあるだけで、スカイデッキのところには説明が一切ありません。</p> <p>また、観光案内所も市役所の中にありますので、土日にファミリー層が</p>

発言者	発言内容等
市民	<p>子連れで週末どこに行こうって思っても案内所がない、パンフレットを手にする場所も看板もない。モチーフがまちの中にある状況です。</p> <p>この会議室の天井はこれリンドウですね。清和源氏の家紋は先ほど言いましたが、笹リンドウですので、そういうモチーフをまちの中に散らばらせるとか。先ほどの看板にも繋がりますが、ピクトグラムはバリアフリーにもすごくいいものです。何もないので、アイキャッチになるものが欲しいというところです。</p> <p>能勢電鉄の駅名の看板が数年前になりますけれども、地域に基づいたイラストが添えられるようになって、非常にいいという意見が会議の中でありました。そういうものをもっと駅だけではなくさまざまなところへ波及させていくべきだという考え方が非常に多かったように思います。</p>
山本委員	<p>ご提案が主に多かったかなと思います。例えば自治体間地域とか、あとは学校単位とかで歴史文化を上手に取り入れているようなご意見はありましたでしょうか。</p>
市民	<p>提案書の5ページに書かせていただいています。時間の都合上、説明は省略させていただいたのですが、ここにまとめさせていただいております。</p> <p>他地域のものをモデルにしたとなると、二つ目にあります川西かるたというものです。これは茨城県の古河市というところにお住まいで、この度こちらに引っ越しされた方がいらっしゃいました。</p> <p>その方自身が子どもの頃に古河市の歴史や特産品をかるたにしたものを学校行事でやっていたという事例を紹介いただきました。それがここに書かれているものだと思います。</p> <p>ただ、川西市が歴史的な教育をしていないということではありません。</p> <p>私は川西市で中学時代から過ごしており、私が学生の時は『私たちの川西』という冊子があり、川西市の地形や特産品などが載っていました。あと最初にご紹介させていただいた、源満仲と三ツ矢サイダーの関係の歴史については社会科の授業でありました。</p> <p>市内の中学校を卒業し、現在は高校生の方が4班に何人かおり、その方の意見としては、学んだ記憶はあるけどもあまり覚えてないというものでした。本だけでなく楽しみながら学べるかるたは有効ではないかということになりました。</p>
伊藤委員	<p>先ほどご紹介いただいたかるたは、4班の方が50音すべての例を作成いただき、5ページにある「ゆ」「せ」「き」はその中の一部です。</p> <p>ただ、かるたを市として作成するとなると、費用も掛かってしまいます。そのため、市が作成するのではなく、市は企業や市民、NPOをつなぐコーディネーター役を担うことが大切だと思います。</p> <p>例えば、三ツ矢サイダー記念館はあるが、現在は立ち入り禁止になっていて全然使えない。しかし、4班ではもっと使えるのではないかと意見がありました。そういったところを市が間に入ることで、何かできないのか</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>というところが今回の提案の特徴だと思います。</p> <p>ありがとうございます。 4班のみなさんどうもありがとうございました。</p> <p>次回の11月6日の第5回では、かわにし創生本部の意見を踏まえた素案が提案され、その議論をするということになります。非常に厳しいスケジュールとなり、申し訳ありません。</p> <p>本日の市民会議の各班の想いや、私達の考え方を述べたところを活かして素案を作っていただきたいと思います。</p> <p>その時に各班の共通提案も一緒に説明をいただきたいと思います。その後、素案を説明していただいて、素案に対する私たちの考えを述べたいと思います。</p> <p>市長が来られていますので、市民会議の提案や私たちの考え方を受けて、素案作成に向けた市長としての考え方をお聞かせいただければと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>まず、本日も長時間にわたりましてご協力をいただき、ご議論いただきましてありがとうございます。</p> <p>皆さんの議論と提案をずっと聞いていて私が自信を持っていたことが確信に変わりました。</p> <p>川西市の財産は豊かな自然と利便性、住宅都市としての魅力ですが、それ以上に魅力なのは川西市民が持っている市民の力だと、私はずっと信じてやってきました。本日の皆さんのプレゼンを聞いて、改めて市民の力だと確信をさせていただきました。</p> <p>我々行政がまだまだ変わりきらないところがあります。卵焼きを一緒に作ろうといっても、それぞれが作ったものを寄せ集めるみたいになってしまいます。</p> <p>しかし、今日のような場所で、市民の皆さんのストレートな意見、専門家の皆さんの具体的な提案、そして我々の行政としての思い、そういったものをしっかりと計画づくりの中に盛り込んでいきたいなと思っています。</p> <p>少し長くなりますが、正直提案を見たときネスタリゾートなんか無理だと思いました。行政が事務局をしていたらそんな提案は初めから消されてしまいますし、JR川西池田駅の名前を変えようとか川西市の名前を変えようとか、私ではおおよそ提案できないものもご提案をいただきました。</p> <p>3年間の戦略でありますので、具体的にできること、3年間でやらないといけないこと、少し大きな夢みたいなことで市民としては実現してほしいこと、様々なものがあると思います。</p> <p>我々と皆さんとのチームでつくってきたものを大切にしていきながら、順位付けをし、具体的な戦略の素案を次回お示しさせていただきたいと思っています。忌憚のない筋書きのないご議論をいただければと思いますので、どうかよろしく願いいたします。</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>どうもありがとうございました。            骨子案についての意見があればメールで事務局へ提出いただければと思います。            では司会を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>皆様、本日はありがとうございました。            次回の第5回かわにし創生総合戦略推進会議は11月6日水曜日の午後2時からを予定しております。            また詳細が決まり次第皆様にご連絡差し上げます。</p> <p>それでは本日の会議はこれで終了とさせていただきます。            本日は誠にありがとうございました。</p>